

顧客を守る！

▶顧客の生活を支える

商品やサービスに防災機能を付加する

013

**フェーズフリーを道の駅に取り入れ
災害に強い地域を下支えする**

#地域防災力 #フェーズフリー

取組主体		
鳴門市役所・株式会社 TTC		
従業員数	想定災害	実施地域
—	津波等	徳島県

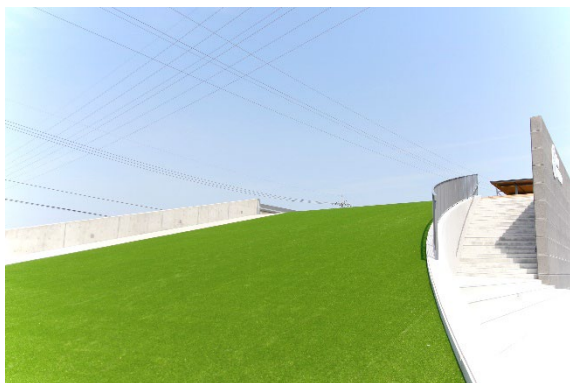
道の駅にフェーズフリーを取り入れ、観光拠点兼防災拠点として運営している。すべり台を災害発生時の避難ルートとしても機能するよう設計しているほか、食料供給拠点となることを想定したバックヤードの整備を行っている。

1 取組の概要

- 鳴門市役所と株式会社 TTC は、徳島県鳴門市で「道の駅くるくるなると」を運営している。道の駅くるくるなるとは四国の玄関口となる鳴門インターチェンジ近くに位置し、観光の目的地になる道の駅として整備された。「皆んながくるくる、笑顔になると」をコンセプトとしており、体験型・食のテーマパークとして設計されている。
- 道の駅くるくるなるとの特徴は、フェーズフリーの観点を取り入れて設計されている点である。屋上は芝生広場、展望デッキ、大型遊具、ジップラインが設置されており、家族連れや観光客が自由に使える空間となっている。一方、津波を想定した一時避難場所としての機能を有している。例えば、屋上へのアクセス部は人工芝を敷き詰めたスロープとなっており、誰でも・いつでも・早く避難できる動線となっている。すべり台は災害発生時の避難ルートとしても機能するよう設計されている。ジップラインの高さは東日本大震災の際の津波高と同様に約 15 メートルに設定されており、ジップラインを体験しながら防災意識を醸成できるようになっている。



くるくる なるとの外観



スロープの景況



屋上広場の景況

- 施設内では、徳島県や鳴門市の特産品を中心とした加工品の販売や飲食施設の運営が行われている。店舗のバックヤードは、災害発生時は食料拠点として機能を果たす想定で整備されている。
- 避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練等を行っている。

《取組の検討・実施体制》

- 鳴門市が設置者であり、株式会社 TTC が指定管理者として運営している。

2 取組が始まった経緯・背景

- 鳴門市では、フェーズフリーの概念を都市づくり・防災の基本思想として採用している。公共施設や道路・公園、交流拠点施設、観光・集客施設へ横断的にフェーズフリーを適用している。また、地域防災計画においては、「日常生活の質を高めることが、結果として災害時の備えにつながる」と明示されている。
- フェーズフリーを基本思想として採用した狙いは、効率的に防災の取組を進めることにある。市全体の年間予算に対し、防災に特化した予算が限られている中、観光・教育・福祉等、他分野の事業にフェーズフリーの概念を取り入れることで、防災の取組を持続的にするという考えがあった。
- 道の駅くるくるなるとは、上記の方針に基づき設計段階からフェーズフリーを意識して整備された。

3 取組による効果・成果

- フェーズフリーを取り入れた施設のモデルケースと評価されている。2023 年には、第 3 回フェーズフリーアワード事業部門にてオーディエンス賞を受賞した。
- 店舗の従業員の安全意識が高い水準を保っている。自身が被災する可能性を想定するだけに留まらず、災害発生時の利用者の安全確保まで考慮した店舗運営が行われている。
- 防災拠点として認知されていることで、地域の警察・消防・自衛隊との連携が強まっている。道の駅くるくるなるとの主催するイベントにも、積極的に協力していただいている。

4 周囲の声

- 2022 年に台風第 14 号が発生した際、他の観光施設がほぼすべて休業する中、道の駅くるくるなるとは観光客の避難場所となることも念頭に置きながら営業した。従業員も、観光客の安全確保のために営業が必要だということを理解して取り組んでいた。結果、台風の中でも多くの観光客が訪れ、「ここが営業していて助かった」との声をいただいた。

5 直面した課題と対応

- 道の駅くるくるなるとは開業まで大きな困難もなく、スムーズに事業を進められた。大規模かつ観光拠点でもあるという恵まれた条件で運営している施設である。モデルケースとしての評価は得ているものの、より小規模な施設や条件の違う施設へフェーズフリーを取り入れていくうえで、どのように道の駅くるくるなるとのケースから示唆を得てもらうかが課題である。

6 今後の展望

- 店舗運営の人材育成において、フェーズフリーの概念に基づいて道の駅くるくるなるとが運営されていることを基礎教育として組み込みたいと考えている。教育プログラムの作成を検討している。

担当者の声

道の駅くるくるなるとに限定せず、まちづくり全体にフェーズフリーの考え方を組み込むことが重要だと考えている。全庁的に連携し、引き続きフェーズフリーの取組を市全体で推進していきたい。（鳴門市担当者）

道の駅くるくるなるとの運営に注力し、鳴門市の「自然と命が守られる環境づくり」という理念を伝える役割を担っていきたい。（株式会社 TTC 担当者）

問合せ先

鳴門市 企画総務部 戦略企画課
Tel : 088-684-1120
Mail : kikaku@city.naruto.i-tokushima.jp

動画

—

サイト URL



《本事例のポイント》

道の駅くるくるなるとは、市全体でフェーズフリーをまちづくりの基本思想としている中で、観光拠点兼防災拠点として設置されている。防災を全面に押し出した施設ではなく、平時には自然体で運営しながら、災害発生時には避難所や食料供給拠点として機能するように設計されている。フェーズフリーを取り入れた公共施設のモデルケースとなっている点が、本事例の特徴である。